

第2回 日本禁煙科学会 学術総会 シンポジウム及び分科会 抄録(抜粋)

日本禁煙科学会 (2007.11)

シンポジウム

【シンポジウム 1】 12月1日 10:15-11:00 能楽ホール

■テーマ:「スポーツと禁煙」

■座長:

東山明子 畿央大学 教授

■シンポジスト:

津田忠雄 近畿大学 健康スポーツ教育センター 准教授、心理カウンセラー、近畿大学陸上競技部監督、
関西学生陸上競技連盟コーチ

橋本享祐 立命館大学経営学部5回生 立命館大学パンサーズ 昨年度主将

(06年度関西学生準優勝、05年度までは関西学生4連覇、04年度関西学生優勝・甲子園ボウル優勝・
ライスボウル優勝、03年度02年度甲子園ボウル2連覇、ライスボウル2連覇)

石井隆 つけもの「石井」社長 滋賀県クレイ射撃協会所属 スキー競技A級保持者

■要旨:

21世紀に入ってスポーツ界における禁煙化が世界レベルで進んできている。しかし、日本ではまだまだスポーツ選手やスポーツの場における喫煙に寛容である。成人アスリートや指導者の喫煙は依然として存在し、アスリート自身のパフォーマンスに影響するだけでなく、未成年アスリートや応援する子どもたちへの喫煙の連鎖にも影響している。そこで、今回は、運動量や集中力において大きく異なる3種類の運動分野から、それぞれすぐれた成績を挙げている選手および監督に会場いただき、スポーツの現場で活躍する人たちの現状認識と展望を把握することによって、スポーツの場における非喫煙実現への道が明確化されることを期待する。

【シンポジウム2】 12月1日 18:00-19:00 1F会議室(1)

■テーマ:「田坂佳千先生メモリアルシンポジウム」

■座長:

伴信太郎 名古屋大学総合診療科 教授

中西重清 中西内科

■シンポジスト:

藤原靖士 奈良市立月ヶ瀬診療所

中浜力

■要旨:

このシンポジウムは、今年2月に田坂先生がお亡くなりになられた悲しみの中で、禁煙支援に応援を寄せてくださっていた田坂先生のマインドを継いで、家庭医のみなさまが中心となるシンポジウムを設けるという趣旨から生まれました。その後ご家族にも同意を頂戴しまして、日本禁煙科学会の家庭医療分野でのシンポジウムとして開催することになったものです。

冒頭、田坂先生にとくに親交の深かった中西重清先生に、田坂先生の思い出を語って頂きます。そしてそのあと、家庭医療における禁煙支援について、奈良の藤原先生、大阪の中浜先生にお話頂きます。田坂マインドを敬称し、家庭医療での禁煙支援の楽しさと喜びを感じ取っていただけるシンポジウムになりますよう、願っています。

【シンポジウム4 歯科】 12月2日 10:15-11:45 2F会議室(4)

■テーマ「歯科医療における禁煙の潮流」

■コーディネーター・座長：

王宝禮 松本歯科大学歯科薬理学 大学院口腔内科学 教授

■コメンテーター：

山口晃 日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学 教授

■プログラム：

1. 「歯科分科会への期待と抱負」 高橋裕子 日本禁煙科学会 副理事長挨拶
2. 「シンポジウム主旨説明」 王宝禮 松本歯科大学歯科薬理学講座教授
3. 「歯科における禁煙治療の経済評価について」 埴岡隆 福岡歯科大学口腔保健学講座教授
4. 「奈良県歯科医師会の禁煙支援の取り組み」 森本清治 奈良県歯科医師会会長
5. 「歯科診療所での禁煙指導の取り組みと日本ヘルスケア歯科研究会での啓発事業」
藤木省三 兵庫県神戸市開業、高木景子 兵庫県神戸市開業
6. 「歯科大学、歯科衛生士学校の禁煙教育の重要性」 王宝禮 松本歯科大学歯科薬理学講座教授
7. 「総合討議 次年度にむけて」

■要 旨：

多くの歯科医師・歯科衛生士は、口腔内の状況を見ると、歯、そして軟組織を視診の際、必ずといっていいほど、歯面・歯肉の色などから喫煙の有無を知ることができる。また、歯学部で6年間の医学教育の中では、解剖学に始まり、専門医師による内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科などの講義カリキュラムに精密に組まれている。口腔と全身疾患の関係は歯学教育において最重要項目である。一方、タバコは口腔内の二大疾患であるう蝕・歯周病のリスクファクターとして科学的に解明されている。多くの歯科診療室では、禁煙すれば歯周病になりにくくなり、健康な身体作りになると指導している。

また、歯科における禁煙治療の促進は、生活習慣病であるう蝕・歯周病および口腔癌などの口腔疾患の予防につながり、将来的に医療費削減にもつながる。以上からも、歯科における禁煙指導の充実には健康増進に有益である。このような背景から、日本禁煙科学会歯科分科会としては、歯科医師・歯科衛生士が国民に対する健康増進のためタバコに対する人の病態解明と禁煙指導、ならびに歯科医師・歯科衛生士の禁煙指導教育の充実を行うことを目的としている。

分 科 会

【職域分科会】 12月1日 13:00-14:30 1F会議室(1)

■テーマ：実践！「職域の喫煙対策マニュアル」

■コーディネータ：

富永典子 エア・ウォーター健康保険組合 保健師

■基調講演：

「職域における健康支援」 安倍孝治 ワールド健康保険組合専務理事

■プログラム：

「製造業工場禁煙プロジェクト」 児玉 美登里 プレス工業㈱ 尾道工場

「組合健保における禁煙支援」 富永典子 エア・ウォーター健康保険組合

■要 旨：

労働安全衛生法では「快適職場」が、健康増進法では「受動喫煙の禁止」が唱えられてからすでに幾数年が経過しています。しかしながら、働き盛り層への喫煙対策は一部を除き、足踏み状態の感があります。そして来年度からの「高齢者の医療の確保に関する法律」では、医療保険者に義務化される特定保健指導の対象者を選ぶリスク指標に「習慣性喫煙の有無」が含まれることとなり、今後、職域における喫煙対策は、更に重要な事業となることが必至です。

しかし多くの現場では、禁煙支援をすすめるべく産業医や産業看護職が不在もしくは在籍していたとしても産業看護職1~2人といった少人数体制がほとんどです。また、実際に禁煙支援を経験している医療保健者は、まだまだ少ないのが現状と思われます。

職域で行われている保健事業は、事業主主導の場合もあれば、組合健保主導の場合もあり、また組織形態・規模も千差万別であり、また企業トップの価値観によっても大きく左右されてしまう様相があります。

そこで、どのような職場であっても、どのような方が推進リーダーになっても、明日からすぐに使える「喫煙対策マニュアル」があれば、多くの働き盛りの方々に喫煙の害から守ることが可能になる、そして産業の現場から煙害をなくすことができる。

そんな将来を実現すべく、分科会として「喫煙対策マニュアル」作成に向けてワーキングしたいと思います。

参加を希望される方は、11/25までに km-syokuiki@ml-d3.infoseek.co.jp までご連絡ください。事前アンケートを含め、連絡はすべてE-mailで行います。

よろしくお願いいたします。

【教育分科会1】 12月1日 13:00-14:30 1F会議室(2)

■テーマ：「喫煙開始日の力学」

■コーディネーター：

北山敏和 田辺第三小学校

秋戸葉紀 福住小学校

■プログラム：

1. 趣旨説明 北山敏和、秋戸葉紀
2. グループ活動
 - ・彼／彼女に喫煙という行動を選択させた力は何か
 - ・喫煙防止教育を通して育てたい力は何か
3. 全体でのディスカッション
新しい喫煙防止教育をデザインしよう

■要 旨：

喫煙者の過去をたどれば、きっとどこかに初めてたばこを吸った日、つまり喫煙という行動を選択した日があるはずです。その日、その人は、なぜ喫煙という行動を選んだのか、どのような力が彼／彼女にそれを促したのか、その1日を想像しながら、子どもたちに対して働くさまざまな喫煙を促進する力を明らかにし、喫煙という行動を開始させないためには、喫煙防止教育においてどのような能力を身につけさせることが必要なのかについて考えたいと思います。

【教育分科会2】 12月1日 15:00-16:30 1F会議室(2)

■テーマ：「学ぼう！プロの喫煙防止教育術」

■コーディネーター：

住田実 大分大学 教育福祉科学部
野田隆 のだ小児科医院

■プログラム：

「総論 本分科会の目的」 北山敏和 田辺第三小学校
「歯科医の『面白くてためになる防煙・禁煙教育』」 岡崎好秀 岡山大学歯学部
「薬剤師のする防煙教育（幼稚園児向け）」 杉本香織（有）しろやま シスター薬局
「小学校1年生の喫煙防止教育（ビデオ+本人の解説）」 谷口明子 奈良教育大付属小教諭、
上田光枝 奈良教育大付属小養護教諭
「6年生むけ授業」 森本寿子 奈良教育大付属小教諭
「Closing Remarks」 住田実

■要 旨：

教育分科会2では、講演経験豊富で、教育学部の先生と間違われるほどの「面白くてためになる」講演をされる歯科医の岡崎先生にその秘訣を語ってもらいます。次に幼児向けの防煙教育素材を開発された姫路の薬剤師杉本先生に幼児に教える際の留意点ともに、教える側の喜びについても語って頂きます。次に子どもを教えるプロである谷口明子先生（奈良教育大付属小教諭）と上田光枝先生（養護教諭）（教師）に小学校1年生への喫煙防止教育の実際をビデオを交えて講演して頂きます。

さらに小学6年生に向けての防煙授業を森本寿子先生（奈良教育大付属小教諭）に見せて頂きます。大分大学で小・中学校の教員になる学生に健康教育学を講じている住田実先生に締めくくって頂きます。

授業経験のない方でも、どんな職種のかたでも、喫煙防止教育が明日からできるような実践に役立つ内容にしたいと思います。皆様、挙って教育分科会に足をお運び下さい。（文責 野田）

【クリニカルパス・保健診療分科会】 12月1日 15:00-16:30 1F会議室(1)

■テーマ：「保険医療としての禁煙支援—より良い連携のために」

■コーディネーター：

長谷川浩二 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 展開医療研究部長

■話題提供者：

寺嶋幸子 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 外来看護部
秦恵美子 京都大学医学部付属病院 外来一階看護師
谷口千枝 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター禁煙外来、愛知県がんセンター中央病院 禁煙外来専任看護師

■コメンテーター：

清藤千景 独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院 呼吸器科

■要 旨：

保険診療で禁煙外来が可能となり、様々な医療施設で禁煙外来が始まりつつあります。禁煙支援を行うにあたってはニ

コチン依存に対する薬物療法のみならず患者さんの精神的支援がとても重要であり、医師、看護師、薬剤師、事務の方など多くの職種の人が協力しあい、患者さんを支援して行くことが必要です。本ワークショップでは保険医療としての禁煙支援を行うにあたり、各施設で行われている禁煙支援のあり方を紹介して頂くと共に、より良い連携のための様々な工夫に関して話し合っ行ってきたいと思います。

【地域・行政分科会】 12月1日 15:00-16:30 レセプションホール

■テーマ：「行政と市民の連携～大分と和歌山に学ぶ」

■コーディネーター：

佐本明 和歌山県議会事務局 調査課 課長

森岡聖次 和歌山・湯浅保健所

■プログラム：

「日本初！タクシー全車禁煙化の1年半」 漢二美 大分県タクシー協会会長

「KK 大分の活動と、大分市長インタビュー」 伊藤裕子、住田実 KK 大分

「たばこ問題を考える会・和歌山20年の歩み」 笠原悌二郎 たばこ問題を考える会・和歌山代表世話人

「親子で取り組む禁煙教育ボランティア」 田畑奈都子、田畑宏 和歌山県禁煙ボランティアの会

「週刊・たばこの真実—高校における禁煙教育の試み」 奥田恭久 県立和歌山工業高校

■要 旨：

何事も行政でということが財政的に困難となったこと、一方でニーズの多様化ということもあり、住民を含めた意味で民間主導でした方がセンスのいい、地域の実情にあったものができるのではないかとということで、市民活動、ボランティア、行政との協働などが活発となっています。

この分科会では、大分と和歌山のユニークな取組の実例とそのココロについて、ご紹介いただくことで、他の地域でのたばこ対策の推進に寄与できればと考えています。

盛り沢山ですが、できるだけフロアからのご意見をいただけるようテンポのいい運営をしたいと考えていますので、ぜひみなさん、ご参加ください。

【小児科分科会Ⅰ、Ⅱ】 12月2日 9:00-11:45 1F会議室(1)

■テーマ：「子どもたちをタバコから守る」

■コーディネーター：

野田隆 のだ小児科

牟田広実 福智町立方城診療所

■プログラム：

「乳児健診での禁煙支援」 宮地佐和子 (地クリニック)

「保護者の禁煙指導の重要性を痛感した失敗談」 鈴木修一 独立行政法人国立病院機構下志津病院

「小児科診療所でもできる禁煙支援外来」 田草雄一 ぽよぽよクリニック

「親への禁煙支援」 佐久間秀人 佐久間内科小児科医院

「学校禁煙化への体制作り」 高田修 たかだこども医院

「未成年への禁煙支援」 松田淳 (明和会中通総合病院)

■要 旨：

子どもたちは、タバコの最大の被害者であるといえます。また、子どもたちは生活を共にする人たちのタバコの被害を受けている点で、他の受動喫煙被害者と大きく異なっています。

つまり自分の力ではタバコから逃れられない存在です。喫煙問題は周りにいる大人の力で何とかしなければいけない問題です。そのため、統一テーマを「子どもたちをタバコから守る」としました。

小児科は若い親たちが子どもを連れて訪れます。この親たちは喫煙率が最も高い年代層であり、かつ自分の病気ではなかなか医療機関を訪れることが少ない方達です。また、妊娠・出産・子育てを通じて、禁煙意欲の高まる時期に接点を持っている診療科であるともいえます。

喫煙防止には、最初の1本を吸わせないということが大事で、その目的達成には子どもの周りの環境を無煙化することが肝要です。

分科会1は、「子どもの周りを無煙環境に!!!」をサブテーマにして、子どもの成長発達にあわせて、乳児健、幼児期、学童期、思春期のそれぞれの時期での親への禁煙支援や、児への禁煙支援について実践上の問題点やうまくいった試みなどをシンポジウム形式で報告していただきます。

また、学校医として学校敷地内禁煙化に向けてどう取り組むかについても報告していただいて、子どもに関わる人が問題を共有して頂く場を提供したいと思っています。分科会1は自由に出入り可能ですので、興味があるものだけでもかまいませんので、多くの方の御来場をお待ちしております。

分科会2は、「明日からもっとうまくなる小児科での禁煙支援」をテーマに、ロールプレイや傾聴についてのワークを通じて、実践的な学びを計画しています。集中して討議して成果を出すという性格上、時間中会場はクローズドにさせていただきます。そのため、分科会2に参加を希望される方は、11/25までにqze05346@nifty.comまでご連絡ください。事前アンケートを含め、連絡はすべてE-mailで行います。よろしくお願いいたします。

【精神科分科会】 12月2日 13:00-14:00 2F会議室(3)

■テーマ：精神・神経科における禁煙化の諸問題と解決法について

■コーディネーター：

河村裕 鹿児島大学 保健管理センター

■コメンテーター：

法山良信 奈良県立医科大学精神医学講座講師

■話題提供者：

「禁煙ワーキンググループの再出発 ～SMMC 構想と実践」 荻野佳代子 医療法人社団宗仁会 奥村病院

「全敷地内禁煙3年を超えての状況」 村井俊彦 宇治おうばく病院

「精神科病院における全敷地内禁煙への取り組み」 樺山勝 医療法人宮本会 紀の川病院

■要 旨：

この分科会は、精神疾患を有するみなさんに寄り添い、健康に生きていただくために禁煙に関して私たち医療者は何ができるか、そしてこれから究明しなければならないのはどういうことかといった事に取り組むベースを作ってゆくために設置されました。

絶対無理とされていた精神科病棟での完全禁煙ですが、完全禁煙の実施病院が増えるに従い、喫煙から禁煙への移行は予想外に容易に行われることが確認されています。その一方で、喫煙から禁煙への移行が困難な人たちへの対応も重要な問題です。この分科会では、精神科での禁煙の取り組みを通してこれらの問題を明確にし、精神疾患を有するみなさんの健康を守る一助となることを願っています。

【心理学分科会】 12月2日 13:00-14:00 2F会議室(4)

■テーマ：「たばこを吸わない社会づくり：心理学からの貢献」

■パネリスト：

「大学禁煙化プログラムを開始して」 山田富美雄 大阪人間科学大

「職場のメンタルヘルスと禁煙(EAPから)」 大野太郎 関西福祉科学大

「ステージ理論による喫煙習慣の予防とその課題」 島井哲志 康心理学研究所

■要 旨：

非喫煙から喫煙へ、喫煙から非喫煙への移行にはさまざまなファクターが働くが、心理的なファクターも大きい。効果的なソーシャルサポートプログラム(禁煙マラソンなど)は、心理学の理論と無関係に現場のニーズを吸い上げる形で構築されたものであるが、心理学のさまざまな理論と非常にCOMPATIBLEである。現在、禁煙は保険診療など薬物療法が主流となっているが、薬物療法が解決しえない禁煙のさまざまな問題が残存する(再喫煙・禁煙時のストレスなど)そうした諸問題の解決に心理学は寄与してゆけるものとする。

【薬剤師分科会】 12月2日 14:15-15:30 2F会議室(3)

■テーマ:「今、社会の期待に応える薬剤師になる!」

■コーディネーター:

原 隆亮 和歌山県薬剤師会常務理事

■プログラム:

「全国の薬剤師会へのアンケート調査結果の報告」 原 隆亮 和歌山県薬剤師会

「鹿児島県薬剤師会における「認定禁煙支援薬剤師」養成活動」 山王 奈保子 鹿児島県薬剤師会

「特定健診・特定保健指導における薬剤師参加を有意義にするために」 伊藤 裕子 大分県薬剤師会

■要 旨:

タバコは人体に及ぼす影響が多数報告されて、各方面で禁煙運動が行われています。

その中、われわれ薬剤師も積極的にこの運動に取り組む必要があり全国各地の薬剤師会では禁煙等の研修会がなされ、認定薬剤師等などの養成している薬剤師会もあります。本年度の日本薬剤師会の学術大会では はじめて禁煙支援の分科会が企画され活発な議論がなされました。そこで本会の分科会ではその内容をより具体的にして話題提供の後、フロアーディスカッションを通じて、今後に向けて薬剤師分科会の方向について考えたいと思います。

■内 容:

1. 禁煙支援における各薬剤師会の取り組みについて
2. ニコチンパッチの一部OTC化に向けての準備
(全国どこの薬局でもニコチンパッチを利用した質の高い支援を受けることのできる体制づくりに向けて)
3. 特定健診・特定保健指導において薬剤師の職能を最大限に生かすために今、なにをすべきか。

【コラボレーション分科会 遠隔医療学会】 12月2日 14:15-15:45 2F会議室(4)

■テーマ:「保健指導に関するテレメンタリング」

■コーディネーター:

長谷川高志 国際医療福祉大学

■プログラム:

「遠隔医療の概要と今後の展望」 長谷川高志 国際医療福祉大学

「特定保健指導とITの活用」 岩澤由子 群馬大学院医学系研究科 情報医療学、(株)オネスト

「ITによるコミュニケーションのワーク」 酒巻哲夫 群馬大学医学部附属病院

■要 旨

遠隔医療にはテレラジオロジーや健康管理を行うテレケアがある。

今後の発展が期待されている。来年度から始まる特定健診・特定保健指導の中でもe-mailの活用が盛り込まれており、遠隔からの健康支援が加速される。そこで医療保険者による効果的で実現可能な特定保健指導システムの事例を紹介する。また保健指導を遠隔で行うための技能、テレメンタリングとして、テレビ電話を用いた保健指導のワークを行う。